

令和4年度 学校評価（自己評価・学校関係者評価）報告書

令和5年5月31日
(学)洗心学園 加茂葵幼稚園

1. 学校評価の目的

本園は『丈夫なこども 心豊かなこども ～心身ともに健やかな子どもに～』を教育の目標とし、子どもをまん中に各家庭と協力し合って、一人一人の健やかな育ちを支えるための教育実践に力を入れている。

日頃から担任はじめ全職員が子どもたち一人一人への丁寧なかかわりと見とりに努め、日々の保育の振り返りはむろんのこと、全職員による定期的な教育内容や環境の見直し、ならびに毎年度末に教育課程（カリキュラム）の見直しを行っている。

教育の営みは PDCA「教育目標の設定（P）→保育の実践（D）→振り返り（C）→改善（A）、次の目標の設定（P）」というサイクルで示すことができ、このPDCAを繰り返すことで、教育の質が向上していく。（自己評価）

この自己評価を保護者の代表や地域の方々（学園評議員）など、園にかかわる外部の方にも開示して評価をいただくことによって、自園の教育の質向上とよりよい園運営に生かしていきたい。幼稚園は学校教育の始まりであること、また公教育であることを忘れず、学校評価への取り組みを通して偏りのない教育の実現を目指したい。

2. 学校評価の内容

- ①教育目標の達成について（教育活動への評価等）・・・4年次
- ②子育て支援活動への取り組みについて
- ③防災ならびに健康生活への取り組み（安全ならびに健康な生活への配慮）について

①令和4年度教育目標の達成について

「丈夫なこども 心豊かなこども ～心身ともに健やかな子どもに～」

○遊びによる教育「いっぱい遊んで大きくなろう！」

○咲かせたい個性の花「自分らしくいられるように・・・」

○明るく正しく仲良く「仲良しの輪を広げよう！」

【令和4年度 各担任による自己評価】

たんぽぽ1組 [小規模保育 1歳児3名 この他一時預かり利用の0, 1歳児が毎日5名前後]

◎子どもへの援助と保護者への対応について

1歳児クラスは子どもも親も初めての園生活なので、丁寧な保育、丁寧な対応を心掛けた。子どもが喜んで登園し、保護者に笑顔で手を振って離れられるという姿、お迎え時に笑顔でいる姿を見ることで保護者も安心して預けられたのではないかと思う。連絡帳で毎日の様子は記載しているが、保護者には出来るだけ声をかけ、様子を伝えたり、家庭での様子を聞いたりとコミュニケーションをとった。また、ゆったりとした余裕のある時間が過ごせるように一人ひとりの健康、成長、安全を考慮しながら無理のない保育を行う中で、身支度や返事、話を聞く態度などを養うことが出来た。

◎職員との関わりについて

子どもが増えるにつれて、職員の数も増え、複数担任というクラスになった。初めは戸惑うこともあったが、日々の保育の中で「子どもにとって良い事は何か」、「保護者に分かりやすく伝えるにはどうしたらよいか」などを保育者間で話し合える時間はとても有意義で、一人で担任をするよりも心強かった。ただ以上児担任とは、保育中も放課後の時間も会うことが少なかった。子どもたちにとっても縦の関わりは必要な事なので、もっと工夫すれば関われる時間が作れたのではないかと反省している。

◎たんぽぽ組と一時預かりの子どもについて

たんぽぽ1組は小規模保育に入園している子。(両親ともに働いていて、保育に欠ける子)、一時預かりの子は“一時的に預かる子”もしくは“時々来る子”であり、“保育に欠けていない子”と認識していた為、ほんの一時の預かりだと思っていたのだが、結果的に一時預かりの子もほとんど毎日来るようになった。(後に入園を考えていると言われたので次に繋げるために毎日来ることを承諾した。)しかし、たんぽぽ1組と同じように日々の保育の中に一時預かりの子が居ると、そのうちに境目が無くなり、毎月の製作活動をどこまで一緒にするのか悩んだり、運動会や発表会などの大きな行事に参加する時も一時預かりの子をどうすれば良いのか悩んだ。(行事では入園している子をメインにさせてあげたいという気持ちと、毎日一緒にいる一時預かりの子も練習に参加しているのだから十分に披露できる力があるという葛藤)

他にも、保護者に配る手紙なども小規模と一時預かりの子の境目が大変難しく、線引きに困ることもあった。その結果、不手際や混乱を招き、迷惑をかけてしまった事もあった。

入園しているクラスの子を大事に保育することと、次に繋がる子の援助を大切にすること、どちらも同時にバランス良く行うのはとても難しかったので、どうすれば良いか改善していく必要があると思う。

◎1年間を振り返って

日々成長していく子どもたちと過ごす時間はとても貴重で、楽しく、保育の仕事をしていて良かったと思える1年だった。今年度も引き続き、未満児クラスの担任となり、変わらぬメンバーで過ごせることなので、複数担任ならではの保育活動を開拓し、質の良い保育が出来る様に日々研鑽していきたい。

内容	振り返り
<ul style="list-style-type: none"> 生活習慣の自立の援助 	<ul style="list-style-type: none"> 身の回りの支度については、丁寧に繰り返しやり方を教えたり、一緒に手伝いながら援助してきた。三歳児は手本となるように頑張ろうとする姿が見られ、満三歳児も、自分でやろうとする姿が見られた。 トイレトレーニングは二名行った。こまめに声を掛けたり、ご褒美シールを貼るなど楽しみながら進めることができた。 食事面においては、たくさん食べる子が多いものの、おかずの好き嫌いが目立っていた。苦手な物も「一口だけ」と挑戦し、バランスよく食べられるように工夫した。
<ul style="list-style-type: none"> 好きな遊びを十分に楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> 毎日楽しく過ごせるように、保育教材を工夫したり環境作りをすることができた。また、子どもたちの興味関心の方向に合わせて環境を整えることができた。 ごっこ遊びなど、初めのうちは保育者が入って一緒にイメージを共有することで徐々に子どもたち同士でも意見を出し合いながらイメージをふくらませることができるようになった。 ※サーキット遊びをたくさん取り入れることでバランスよく色々な運動に取り組むことができた。 人数が少ないこともあり、保育者の影響が強く出てしまうこともあった。自分たちで考えるなど、子どもたち同士での学びが少なくなっているように感じた。年中、年長組との関わりを増やすなど子どもたち同士の関わりを増やすように工夫してきた。

※サーキット遊び・・・組み合わせたいくつかの遊具を周回して体を動かす遊び。

年中うめ組

- ・進級当初は環境の変化に緊張していた。無理に年長組と関わって遊ばせようとせず、安心して遊べるスペースをマットで囲って作ったりした。少しずつ打ち解け一緒に遊んだり、年長児に憧れいろいろなことに挑戦したりする姿に変わっていった。
- ・年長組から刺激をもらい、興味・関心の幅が広がったり、活動を共にすることで精神面・技術面など様々な部分での成長が見られた。一方で年長組に対して遠慮があったり、年長組に付いていだけになってしまい、主体性を育むような活動の援助がうまくできなかったように思う。作品展の共同製作や鍵盤ハーモニカの他にも年中組が主体となるような活動を取り入れるなど工夫すべきだった。
- ・行事に向けての取り組みでは真面目に取り組む子・なかなか気持ちが入らない子などそれぞれであったが1年間の経験を通してやるべき時はやるという態度が身についてきていると思う。
- ・強く自己主張したりする子もおらず、いざこざになることもほとんどなかった。今後リーダーシップを取れる子がでてくるとクラスとしての団結が出てくると思う。

年長まつ組

- ・年長児としての自覚を持ち、年下の子に対して優しく声をかけたり、物事を教えたりと面倒見がよく遊びや行事などでも上手にリードしたり、手本となっていた。
- ・物事への反応がよく発言も多かったが、私語も多く、話の聞き方については注意を促すことが多かった。子供が興味を持てるような話し方をしたり、言葉のやり取りをしながら話を進めるなどの工夫をしてきた。
- ・自分の意見をはっきりと言う子・友だちの意見を尊重する子などいろいろなタイプの子がいた。進級当初は意見がぶつかることもあったが、お互いにゆずったり、自分たちでよい解決方法を思いつくなど上手にやり取りをしたり、役割分担できるようになった。
- ・最高学年ということもあり行事への取り組みでは期待とプレッシャーを感じていたようだった。自信につながるように頑張る姿を認めたり、時には鼓舞したりと心の支えになるよう務めた。
- ・虫やレゴブロック・折り紙・運動など自分の得意分野を發揮して遊んでいる子が多かった。友だちに教えたり、作ってあげたりすることで自分の見識がますます広がったり、力がついていたように思う。また友だちのよいところを褒めたり、認めたりする姿が見られ担任として嬉しく思った。

②子育て支援活動への取り組みについて

未就園児教室：つぼみ組（年間を通し、1～6人程度の参加者がいた。）

（R3年度から引き続き重点的に取り組んだこと）

- ・未就園児教室の開催は月に2～3回（園内行事への参加を含む）、3学期以降2回程度行う。
- ・未就園児教室への集客のため予定表をティッシュ付きで設置、ポスターの内容を見直す、新聞の赤ちゃん誕生を参考に予定表等を郵送する、ホームページ、インスタなどを更新。
- ・初めて未就園児教室に来た親子にはフォトカードと離乳食スプーン&エプロンをプレゼント。
- ・未就園児教室の内容もリトミックや製作、歌、手遊び、パネルシアター、カードシアターなど様々なことを取り入れ、できるだけ手作りお土産を用意したりして、一度未就園児教室を訪れた親子からリピーターになってもらえるよう工夫した。

（今後に向けて）

- ・保育室や担当教諭の理由からたんぼ組の子どもも参加してつぼみ組を行ったが、徐々にたんぼ組の人数が増し一緒に過ごすことが大変になったこともあり、一時預かりの人数を調整することで対応していった。
- ・つぼみ組の予定表は3期に分けて作成していたが作る手間と配布の手間をはぶくため2期制にするとよい。（年間予定表にすると紙面に入りきらない、予定変更の対応も大変なため2期制にする）
- ・誕生児への郵送、初回時の記念フォトは手間や費用を考慮してR5年度はやめてよいと思う。
- ・費用のかからないホームページやインスタなどのこまめな更新ができず、もう少し時間に余裕を持てる工夫をしていきたいと思う。
- ・固定の親子たちがつぼみ組へ遊びに来てくれ、つぼみ組や行事はにぎわっていたが、入園につながるケースが少なかったことが残念であった。他園への入園は兄弟関係上が理由であったり、土曜日保育の有無が理由であったりした。R5年度にはまた新規の親子からリピーターとなって園に足を運んでもらい葵幼稚園の良さを知らせ、入園へつなげていきたい。

一時預かり ※主な利用者は0歳児が3人、1歳児が4人、あとは2～5歳児の子どもたちが時々いた。
小規模保育の1歳児3人と合わせると10人程度

(主な取り組み)

- ・保育に欠ける子どもだけでなく保護者のリフレッシュ等にも利用を快く引き受けるよう努力した。
- ・小規模保育児と一時預かり児との差をなくし、毎月の製作や行事への参加は一時預かり児も行った。

(今後に向けて)

- ・4月の段階では2人だった利用者が日に日に増えてきたことは大変嬉しかった。しかし徐々に人数が増え、職員の手が足りず、人数制限する場合も多く、利用者が利用したい時に快く引き受けられなかったことが残念であった。
- ・0歳児と1歳児の子どもたちの成長段階の差がなく、みんな同室で過ごすことができた。ただ時々単発で来る子どもが年上であると振り回されることもあったので園全体で協力し合って進めていけたらよいと思う。
- ・R3年度に引き続き、連絡帳と写真ノートを使ってその日の様子を知らせるよう工夫した。写真ノートは撮る・現像するなど苦勞も多かったが、利用者から大変喜んでもらっていた。しかし子どもの人数が多くなると更新ができないこともあったので、来年度は2歳児は月に1回配布するお手紙に写真を記載することにして代用していきたい。
- ・ホームページなどで園での様子を知らせる作業が全くできず、R3年度よりも外部への発信が減ってしまった。
- ・行事への参加、製作、活動、手紙の配布などは小規模保育児と一時預かり児との差をなくしていきたい。
- ・早朝から延長の時間まで子どもの人数が多くにぎやかに過ごせたことはとてもよかったが、日々の仕事をする時間が足りず、多くの事を後回しにしてしまった。また、職員間で話がほとんどできなかったこともあるのでその点についてはR5年度以降は解消して話が行き届かないことがないように工夫したり、先のことを読みながら、優先順位を考え、手が足りない時は手伝ってもらおうよう周囲に呼びかけて仕事をするなど工夫していきたい。

③安全ならびに健康生活への取り組みについて

- ・担当者作成の年間計画に沿って避難訓練を実施（年3回。地震・火災を想定）。また、不審者対応も含め防災・防犯向け教材を用いて指導を行ったことで、園児・職員共に安全への意識が高まったように思う。
- ・保護者への引き渡し訓練の実施（年1回）。
- ・担当者作成の年間計画に沿って健康な体づくりへの指導を行った（年6回）。
食育は無論のこと、日常での正しいうがい・手洗い・咳エチケット、トイレの使い方、歯磨き指導、熱中症予防、目の大切さ（ゲームとの付き合い方）など常に家庭とも連携をとりながら取り組みを進めた。年間を通じて感染症による欠席もなく、また病気による欠席者が少ないこともうれしいことであった。家庭からの協力が大きいと思われる。

※次年度も、防災面・健康生活面ともに年間指導計画の見直しを行い、より安全・安心な園生活の構築に努める。

4. 園としての評価 A

- A：おおむねよい（5段階評価での4～5）
- B：ふつう（可もなく不可もなし）（5段階評価での3）
- C：全般に努力を要する（5段階評価での2以下）

5. まとめと次年度にむけて

- ・各クラス担任並びに各担当者による自己評価をもとに全職員で評価を行い、Aとした。
- ・令和4年4月1日から小規模保育に取り組み、手探りではあったが、利用児が増え、にぎやかな毎日である。
その一方で一時預かりを含め、小さいお子さんが増えたことにより、人手不足から報・連・相（報告・連絡・相談）の時間が取りにくくなってしまい、齟齬をきたすこともあった。
また、希望日にお預かりできないことで保護者には不便をかけることもあった。
- ・幼稚園部の評価については、園児一人一人の適切な見とりや指導・援助はおおむね出来ており、就学前教育の役割を果たしていると自負しているが、少人数であることにより良くも悪くも人間関係が固定化しやすく、大きな集団であれば必然的に生じる切磋琢磨する機会に欠けているように思う。
できるだけ全園児での交流や遊び・活動を保障し、様々な人と触れ合うことで理解し合う力、受け入れ合う力が育つよう工夫していきたい。このためにも人員確保が急務と考えている。
- ・子ども一人一人のより適切な見とりや指導・援助はむろんのこと、保育者自身が感じている仕事の楽しさや、やりがいを後押しすることがよりよい園づくりに直結していると考え。
実習生への本園のPR、長期休暇を利用してのアルバイト学生の確保、Iターン、Uターン保育士の確保など積極的な取り組みを行いたい。

令和4年度 学校関係者評価委員の方からのご意見

5名の評価委員の方より回答をいただきました。

◎ 回答 A・・・5名

◎ ご意見・ご助言

- ・先生方が子ども一人一人に丁寧に接して頂いていることを感じていました。担任の先生以外の先生からも子どもの様子を伺う事もあり、他のクラスの子どもたちの事も見守っていてくれていて、嬉しく思いました。
- ・子どもが毎日楽しく登園し、家で園での出来事をうれしそうに話す姿を見て葵幼稚園に入園して良かったと思えます。たくさんの方に園も魅力が伝わると良いと思います。

子どもたちが快適で安全に園で過ごせるように日々努力している姿が見られます。前向きに取り組んでいて子どもたちのことを思う心が伝わってきます。

- ・今年度は、1～3歳の園児が増え、今までとは違った賑やかさを感じました。少子化で兄弟も少ない中で、園で大きい子が小さな子にやさしくしたり、小さな子は大きい子の良い刺激を受け、お互いに成長できる良い環境だと思いました。
- ・最近はホームページやSNSも精力的に活用されていて、素晴らしいと思います。これからも、葵幼稚園も魅力を発信して、より多くの方から知っていただけたらいいなと願っています。

各クラス共に先生方の熱心な、そしてきめ細やかな取り組みが伝わります。小規模ならではの利点を生かし、又、その欠点を見極めての対処をしてほしいと願います。

たんぼぼ組と一時預かりのお子さんへの対応、大変なことと思いますが次へつながる一步と思います。

幼稚園での教育は、人間の成長する過程で一番大切な基礎を形成する期間であり、それを多方面にわたり丁寧に教育方針を考えていることが報告書からわかりました。

園児それぞれの個性を大切に考え、教育する難しさを痛感しますし、将来を見据えた葵幼稚園の独自性を見る思いです。

そしてこの園の特性が出来るだけ多くの人に伝わるようにと期待します。